

# APTFF および UNNExT 会議報告

2017年4月～9月9日

ジョグジャカルタ（インドネシア）

報告者：国連 CEFACT 日本委員会

サプライチェーン情報基盤研究会

菅又 久直

## I. 会議日程：

- 9月4日（月） 東京発 ジョグジャカルタ着
- 9月5日（火） APTFF 会議
- 9月6日（水） APTFF 会議、UNNExT アドバイザリ会議
- 9月7日（木） シングルウィンドウ相互運用性コンサルテーション
- 9月8日（金） ジョグジャカルタ発
- 9月9日（土） 東京着

## II. 会議参加の目的と総括：

国連CEFACT日本委員会・サプライチェーン情報基盤研究会（SIPS）の国際連携活動の一環として、アジア地域における貿易手続電子化の動向を調査し、また我が国で検討した国際標準に基づくビジネスインフラの導入をアジア太平洋地域に波及させる可能性調査を目的に、**APTFF (Asia-Pacific Trade Facilitation Forum)**、および同時に開催されたシングルウィンドウ相互運用性コンサルテーション（Regional Consultation on Single Window Interoperability）にUNNExTアドバイザリの一員として参加した。

開催場所はインドネシアのジョグジャカルタ、旅費および宿泊費は国連ESCAPが負担。

### <総括>

今回のAPTFFは2年ぶりに開催されたものであり、今年2月に発行されたWTO貿易円滑化協定、および現在調印公開中のアジア太平洋地域における電子貿易円滑化枠組協定（Framework Agreement on Facilitation of Cross-border Paperless Trade in Asia and the Pacific：以降フレームワーク協定と呼ぶ）を軸に、シングルウィンドウの今後のあり方につき様々なテーマで意見交換が行われた。なお、フレームワーク協定に既に調印したのは、中国、カンボジア、バングラディシュの3か国であり、5か国の調印を待って発行されることとなる。

シングルウィンドウの必要性とその実装に向けた活動は、発展途上国を含め着実に進められている。その中で課題として取り上げられ、審議された主なテーマは次の事項である。

- シングルウィンドウを機能させるための国内の環境整備
- 農産物のサプライチェーン
- 中小企業の貿易参加

- シングルウィンドウの相互接続
- 越境電子商取引の貿易円滑化
- デジタル商品の輸出入管理

なお、シングルウィンドウの相互接続については、小生よりユースケースに基づく考慮点につき意見表明を行った。

### **III. APTFF 会議：**

アジア太平洋地域の貿易手続簡易化と電子化を促進するため、国連 ESCAP とアジア開発銀行の協賛により、第 8 回目となる APTFF(Asia-Pacific Trade Facilitation Forum)が開催された。当フォーラムは地域各国の貿易手続簡易化を進めるために、各国間の情報交換を行なうとともに、協力して貿易手続簡易化戦略を検討するものである。

当フォーラムには国連 ESCAP 加盟国（62 ヶ国）を中心に約 30 ヶ国、および当地域を支援する国連 ESCAP、国連 ECE、国連 CEFAC、WTO（世界貿易機関）、世界銀行、アジア開発銀行、WTO（世界貿易機関）、OECD（経済開発協力機構）、UNCITRAL（国連国際商取引法委員会）、UNCTAD（国連貿易開発会議）、APEC（アジア太平洋経済協力会議）等の国際機関が参加した。参加者は約 200 名。

アジア太平洋地域からの参加国は次の通り。

アフガニスタン、アルメニア、バングラディシュ、バナウツ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、イラン、日本、カザフスタン、キルギスタン、ラオス、マレーシア、モルジブ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パプア・ニューギニア、フィリピン、韓国、パキスタン、サモア、シンガポール、ソロモン諸島、スリランカ、タジキスタン、タイ、東チモール、ベトナム

今回のテーマは「アジア太平洋地域の持続開発（Sustainable Development）のための貿易円滑化改革」とし、オープニング・セッションおよびハイレベル・パネルに続き、6つのテーマ別セッションが行われた。

#### **(1) オープニング・セッション**

主催者挨拶：

Mr. Sri Sultan Hamengkubuwono：ジョグジャカルタ知事

Dr. Bambang Susantono：アジア開発銀行（ADB）副社長

Dr. Hong Joo Hahm：ESCAP 副事務局長

➔ 今回のフォーラムでは、WTO 貿易円滑化協定、ASEAN シングルウィンドウ、アジア太平洋地域の貿易手続円滑化フレームワーク協定などの環境整備を踏まえた、世界および地域の貿易円滑化改善についての再考を促すことを目指している。

➔ ADB-ESCAP 協力による「貿易円滑化とアジア太平洋の包括的相互運用性改善」と題する小冊子が発行されることが発表された。

(2) ハイレベル・パネル

「アジア太平洋における持続的開発のための貿易円滑化についての再考 (Rethinking trade facilitation for sustainable development in Asia Pacific region)」をテーマに、次の方々によるパネルディスカッションが行われた。

議長：

Mr. Yasuyuki Sawada：アジア開発銀行 経済調査および地域協力部門

パネリスト：

H.E. Ms. Khadeeja Hussain：モルジブ 経済開発省、副大臣

H.E. Mr. Almaz Sazbakov：キリギス 経済省、副大臣

Mr. Ramsharan Chimoriya：ネパール 税関、庁官

Mr. Loo Leong Seng：CrimsonLogic (シンガポール) 副社長

Ms. Barbara Meynert：Fung Group (香港) シニア・アドバイザー

→貿易円滑化改革は SDGs (持続的開発目標) に貢献するものである。特に、複合輸送 (インドネシア)、中小企業、マイクロファイナンスなどにつき意見交換がなされた。

(3) セッション1：アジア太平洋におけるペーパーレス貿易円滑化の状況

議長：

Dr. Hong Joo Hahm：ESCAP 副事務局長

発表者：

Mr. Yann Duval：国連 ESCAP 貿易投資部門 貿易円滑化チーフ

→アジア太平洋地域の貿易円滑化導入状況

Dolores Halloran：WTO 市場アクセス部門

→WTO TFA 実装について

パネリスト：

Luc De Blicq：国際税関機構 手続簡易化部門、副長官

Evdokia Moise：OECD 上級貿易政策分析官

Prasith Suon：商業省、副長官

→ESCAP および ADB による、貿易円滑化の4つの指標 (下記) についての調査結果に基づき、WTO 貿易円滑化協定の実装推進について意見交換が行われた。

- ① 一般貿易円滑化状況 (Transparency, Formalities, Institutional arrangement)
- ② トランジット円滑化状況
- ③ ペーパーレス貿易手続状況 (電子通関など)
- ④ 越境ペーパーレス貿易手続状況 (原産地証明交換など)

(4) セッション2：アジア太平洋における貿易円滑化実装のための統制と制度的改革  
議長：

Rose McKenzie：アジア開発銀行 南アジア部門、上級地域協力スペシャリスト  
発表者：

Poul Hansen：UNCTAD 貿易円滑化部門、OIC チーフ

→貿易円滑化委員会（NTFC: National Trade Facilitation Committee）による持続的貿易円滑化の改善。

Oudet Souvannavong：GMS（Grater Mekong Subregion）事務総長

→官民協力による貿易円滑化の改革モデルとソリューション

パネリスト：

Femanda Borges：東チモール 財政改革委員会、議長

Kanika Y. Tomlinson：ジャマイカ 貿易委員会、弁護士

Muwasiq M. Noor：インドネシア シングルウィンドウ運用機関

→政府の貿易円滑化政策を実現させるための手立てにつき意見交換が行われた。

特に、官民パートナーシップ（PPP）の重要性、および貿易円滑化委員会（NTFC: National Trade Facilitation Committee）のあり方について紹介された。

(5) セッション3：国境以前の貿易円滑化（貿易のためのビジネス環境整備）  
議長：

Cyn-Young Park：アジア開発銀行 地域協力と統合、理事  
発表者：

Gloria Pasadila：APEC 政策支援部門

→電子貿易のための制度環境整備戦略

Henry Sandee：世界銀行 上級貿易スペシャリスト

→インドネシアにおける国境ロジスティックスでの挑戦と計測

パネリスト：

Mohammad Saeed：国際貿易センター、上級貿易円滑化アドバイザー

Anar Suleymanov：税関委員会 開発実績計測部門、第1副長官

Hong Xue：中国 北京師範大学 インターネット政策 理事

→貿易円滑化の仕組み実現には国内のビジネス環境の改善が重要である。貧弱な運輸および物流インフラ（Poor transport infrastructure and logistics）、規定実施能力の欠如（Weak regulatory capacity）、誠実でない契約実施強制の仕組み（Inadequate contract enforcement mechanism）、貿易金融へのアクセスの限界（Limited access to trade finance）などがバリアーとなりえる。

(6) セッション4：農業貿易円滑化戦略

議長：

Shashi Sareen：FAO（国連食糧農業機関） 食料安全アドバイザー

発表者：

Kipp Sutton：USAID（US 国際開発庁） アジア地域開発ミッション

→農業の貿易円滑化とバリューチェーン開発とリスク

Somnuk Keretho：タイ カセツアート大学 IT 改革 理事

→農産物通関手続協業を強化できる新技術

パネリスト：

Francis Lopez：インターコマース 社長

Benno Slot：オランダ 食品および消費財安全局

Marlynne Hopper：WTO STDF（Standards and Trade Development Facility）事務局

→農業のサプライチェーンは複雑であるが、農業取引コスト削減は SDGs

（Sustainable Development Goal）に向け不可欠な要素である。農産物貿易の規定要件の各国整合化に基づく手続改革が必要である。

#### （7） セッション5：電子商取引とデジタル貿易（新興機会と挑戦）

議長：

Tasheen Khan：インド 国連 CEFACT 副議長

発表者：

Sung Heun Ha (Rama)：韓国 KTNET（Korean Trade Network）

→電子商取引のためのシームレス貿易改革

Ho Thant Theang Laura：マレーシア MDEC（Malaysia Digital Economy Corporation）、

→デジタル自由貿易圏と電子商取引手続簡易化の可能性

パネリスト：

Sami Farhad：中国 Alibaba グループ 国際商取引法、上級理事

Shantanu Godbole：IBM ブロックチェーン改革センター

Luca Castellani：UNCITRAL 電子商取引作業グループ、事務局

→国境を越えた電子商取引（eCommerce）が盛んになってきており、それらの貿易手続の円滑化は急務である。また、デジタル商品（SW、音楽、電子書籍など）の貿易手続や、電子データのやりとりに係るセキュリティや個人情報保護についても考慮する必要がある。

#### （8） セッション6：アジア太平洋における地域・国家貿易円滑化改革

議長：

Mahmood Zagar：イラン AFACT 事務局長

→貿易円滑化改革のための事例コンテストが行われた。10件の応募があり、次の

3 件が選ばれて発表が行われた。

- KITA シームレス電子貿易サービス：韓国
- シングルウィンドウにおける食品・薬品管理：タイ
- 通関手続きの刷新：インド

#### IV. シングルウィンドウ相互運用性についての意見交換： (*Regional Consultation on Single Window Interoperability*)

参加者：

- Yann Duval (国連 ESCAP)
- Mr. Sangwon Lim (国連 ESCAP)
- Maria Ceccarelli (国連 ECE)
- Hong Xue (中国 北京師範大学 法制度担当アドバイザー)
- 菅又 久直 (日本 国連 CEFACT 日本委員会 データモデル担当アドバイザー)
- Mee Wan Wong (マレーシア)
- Somnuk Keretho (タイ カセサット大学 ビジネスプロセス担当アドバイザー)
- Tahseen Ahmed Khan (インド 通信情報技術省 国家情報センター)
- Jonathan Koh (シンガポール)
- Mostafa Abid Khan (バングラディッシュ 国際貿易協会 部長)
- Sung Heun Ha (韓国 KTNET)

シングルウィンドウの相互接続についての考慮点につき意見交換を行った。また、国連事務局より「シングルウィンドウ相互運用性ガイドライン」の草案が示され、今後内容のチューンアップのために各自が協力することとなった。

なお、小生からは、シングルウィンドウ相互接続の 5 種類のユースケースを示し、それぞれについての考慮点を掲げるとともに、最も重要なのはデータの正確性であることを訴えた。

<菅又の意見表明：シングルウィンドウの相互接続ユースケースについての考慮点>

##### 1. 通関情報の共有化

- 輸出通関情報は輸入通関の参考情報となる。
- トランジット情報の共有化は手続迅速化に欠かせない。
- 原産地証明は輸入側税関で必須。
- ➔国連 CEFACT 共通辞書のコア構成要素の使用を推奨。

##### 2. 検疫情報の共有化

- 植物検疫情報や動物検疫情報は輸出入側で共有すべき情報
- ➔国連 CEFACT の電子証明書 (eCert) メッセージが使用可能。

##### 3. 安全管理情報の交換

➤ コンテナの積荷事前申告情報の交換。

➔FAL（国際海上交通簡易化条約）の順守。

#### 4. 国際条約関連情報の交換

➤ 絶滅危惧種の国際取引制限（ワシントン条約）

➤ 廃棄物の国家間移動制限（バーゼル条約）

➔国連 CEFACT の標準メッセージ使用可能。

#### 5. B2B 関連情報の交換

➤ 貨物トラッキングのための情報交換

➤ 輸出入荷主間の通関関連文書交換

以上

追記：

ジョグジャカルタはインドネシア・ジャワ島の真ん中にある旧都で、世界遺産のボロブドウル仏教遺跡が有名です。ただ、今回は遺跡周辺でデモがあり、安全のため見学することはできませんでした。



ボロブドウル仏教遺跡